

街路樹

学力向上に向けて ～いわき市学力実態調査の結果から～

「学校での指導・活動についてのアンケート」

質問内容「友だちの悩みについてみんなで話し合う」

	全 国				いわき市
	平均	上位	中位	下位	
小学校6年	41.2	43.9	40.0	39.3	40.6
中学校1年	31.6	24.4	33.4	36.8	31.0

全国的に「友だちの悩み」について学級全体で話し合う機会や場面が少ないことがわかる。

友だちの抱えている課題解決を道徳や特別活動の時間を通して「思いやり」等の心情を育み、豊かな生活を送るため、人間関係の醸成を図る工夫が大切である。

質問内容「友だちの良いところや友だちから学んだことを話し合う」

	全 国				いわき市
	平均	上位	中位	下位	
小学校6年	41.8	44.0	41.9	39.1	41.3
中学校1年	32.7	28.8	35.0	34.0	33.7

学校生活の中で、友だちより学ぶことが多くあるが、意識として深刻にとらえてない状況がみえる。

思春期前期にある児童生徒の場合は、「友だちのよさ」や「友だちから学んだこと」について教師が意図的に共感する場面を設定し、自己肯定感や自己有用感を促す学級経営に努める必要がある。



板書・ノートの指導技術 ④

～日々の板書について見直しましょう～

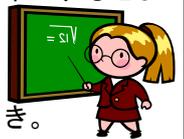
Q. 板書の量は、どれくらいがよいのでしょうか？

A. 板書の量について、次のように心がけることが大切です。

①板書の限界を考え、書きすぎないようにする。
黒板いっぱいになる量が多い板書は、筋道がはっきりせず、混乱を招きます。

適切な量にするため、次の3点を基本にするとよいでしょう。

- ・学習の動機付けをするとき。
- ・子どもの思考を引き出すとき。
- ・内容を確かなものとしてまとめるとき。



②授業の展開によって力動的に弾力性をもたせる。
子どもの発言を生かし、思考の筋道がわかる板書にするため、板書計画にこだわらず、学習の流れの中で修正しながら弾力性のある板書にすることが大切です。

指導過程の各段階においておさえるべき点は、次のようになります。

- 導入
 - ・子どもの興味関心を土台に据えながら、ねらいや必要感をはっきりさせる。
 - ・学習の動機付けを図り、印象づけ、意識を強める。
- 展開
 - ・次の発展につながる契機づくりとして、発表や話し合いの要点をとらえる。
 - ・大切なことを確認して認識を深める。
- 終末
 - ・ねらいに対して、わかったことは何か、考えを深めたことは何かを確認する。

研修の感想紹介

社会体験研修 [経験Ⅱ] (夏季休業中)

○「企業体験研修」

明確な数値目標、目標達成のための細かな手だて、目標に達成したかの検証、その後の改善方策などが具体的でプロ意識を感じた。希望してなった教職だが、マンネリ化したり、向上心が薄れたりすることがある。他の職業に触れ、自分の仕事や仕事に対する姿勢を見つめ直すことができた。

○「介護体験研修」

お年寄りの方々へ接することを通して、危険を予測する目を持ち、一人ひとりに目をかけ、必要な手をかけ、タイミングを逃さず温かな声をかけられる教師を目指したいと感じた。



LD・ADHD等講座 (8/18)

<講義・協議>

○研修で学んだ『児童の情緒を落ち着かせるためには、保護者を元気にすることが最も必要だ』ということをお忘れないで2学期に向けて準備をしたい。

○コーディネーターとしての具体的な知識を理解したり、『困った子ども』ではなく『困っている子ども』という言葉に置き換えていかなければならないことも認識できた。

○グループ協議の中で同じ悩みを抱えている先生方との情報交換が安堵感を与えてくれたり参考になるものがあった。

